



浜寺病院

(平成29年3月3日訪問)
平均在院日数374日 (平成29年2月28日時点)

積極的な取り組みなど

- 意見箱への回答は意見箱の横に掲示され、丁寧な回答で読みやすい大きさの文字だった。
- はなみずき病棟では、ベッド周りのカーテンの仕切りだけでなくブライバシーが守られるように、ベッドの配置にも工夫がなされていた。
- 一部の病棟に、一度に数台の携帯電話を充電できる機械が設置されていた(使用料は無料)。

前回の訪問(平成24年4月)から改善されていた点、未改善点等

- 前回、おやつの時間にテーブルの間にぎっしりと職員(20名程)が立って、患者が食べる様子を見ていた。今回はそのようなことはなかった。
- 前回、中央館4階以外では、公衆電話の周りに仕切り等はなく、患者から「(テレビの音や周囲の音で)電話の声が聞き取りにくい」との声があった。今回、本館4階病棟・中央館2階病棟では詰所から離れた位置に、北2病棟では病棟の端にあるテレビ等のない小さなデイルームに電話が移動されていた。

病院全体

東館は平成28年に建替えを終え、建物の名称は「はなみずき」になっていた。現在、中央館の建設中で、平成30年9月頃に完成予定であり、北館、本館と順次建替え工事をし、平成33年頃に全ての建替えが完了する。病床数は前回訪問時の749床から702床になっていた。建替えによる休床はなかった。

意見箱・人権委員会・行動制限最小化委員会

意見箱は、病棟と外来のいずれも電話の近くに設置されていた。投書は、月1回収され、サービス向上員会で検討される。

人権委員会の委員長は副理事長、開催は月1回。行動制限最小化委員会と同時開催される。車椅子の患者のベルトはずり落ち防止とすることで行動制限最小化委員会の対象ではない。点滴を抜かないようにするために身体を縛ることは、3時間未満は「固定」、3時間以上を「身体拘束」と位置付けている。

面会

面会時間は9～20時。面会室がない病棟もあった。

金銭管理

管理料は1日150円、鍵付ロッカー使用料は月300円。

PSW・退院支援

医療福祉部があり、病棟9名、デイケア2名、地域連携2名、情報システム1名、計15名の各担当が在籍していた。医療保護入院者退院支援委員会の退院後生活環境相談員はPSWが担当していた。療養病棟の退院後生活環境相談員は看護師だった。

退院促進委員会を開催し、院内茶話会や、体験外泊を行っている。退院促進委員会の成果として、保健所や生活保護のケースワーカーと相談し、地域と連携して受入れ先を見つけたり、親の財産がある患者は、若年でも老人ホームに体験外泊を受入れしてもらい、退院を可能にする

連携ができたようだ。

OTの茶話会は月に2回、10名前後が参加する。グループホームや地域の事業所の職員に病棟に来てもらって話を聞いたり、年に1回事業所への見学に行くとのことだった。

患者から「ケースワーカーに相談している」「ケースワーカーは〇〇さん、部屋を回っている。所得税の減免などをしてくれる人。退院のことは主治医に相談している」との声があった。

病棟の様子

携帯電話

病棟内で使用できる病棟とできない(外出時以外は詰所で預かり)病棟があった。

洗濯

衣類のリースはしておらず、個別の洗濯物を外注(150円/回)に出し、まとめて名前のタグを付ける。

病室

個室と4～5人部屋があった。ベッド周りにはカーテンがあり、床頭台や衣装ケースなどが置かれていた。ベッドには、主治医・担当看護師・PSWの名前の記載があった。中央館2階病棟は建替え工事のため、一時的に4人部屋を6人部屋にしている部屋があった。北館2階・3階病棟には隔離室はないが、外から施錠できる個室が2つある。

トイレ

中央館2階病棟はトイレの数が少なく、車椅子用は1室のみ。北館3階病棟では、1ヶ所に洋式が3室しかないため、待つことがある。ポータブルトイレが置いてある病室もあった。

中央館3階病棟では、男性トイレの小便器の下にタオルが敷かれていた。職員によると、滑って転ぶ危険性がある為タオルで尿を吸わせてい



て、臭いが出ないように常にきれいなタオルに取替えるとのことだった。

本館2階病棟 閉鎖 女性 精神療養 60床

30～90歳代が入院している。比較的活動的な患者が多く、毎日院内散歩に行く患者もいる。病棟の奥のスペースでは患者が診察待ちをしていた。

患者の声

「月曜日は主治医で、金曜日は主治医の補佐が診察してくれている」「週2回売店に行っている」「朝早く起こされるのに、朝食は遅い。お腹がすいても『カップラーメンとか食べたらかかん』と言われる」「シャワー室を作って欲しい」

本館4階病棟 閉鎖 男女 急性期治療 60床

入院形態は措置・医療保護・任意、鑑定等様々とのことだった。スマートフォンを使用している患者がいた。病院による金銭管理が2名、残りは全員自己管理だった。

患者の声

「面会室のエリアは落ち着ける」「病室の中は、カーテンを閉めれば、落ち着ける」

中央館2階病棟 閉鎖 男性 精神一般15:1 67床

高齢のアルコール依存症の患者が多い病棟で、認知症の患者もいる。基本的には3ヶ月で退院し、ルールを守れない場合は自主退院してもらうとのことだった。断酒会の旗や治療プログラムの予定(DVD鑑賞・グループミーティング・例会案内)等の掲示があった。月1回は外部の断酒会から元入院患者等が来棟する。

喫煙ルームがあり、利用している患者が多くいた。金銭は3分の2の患者が自己管理とのことだった。

患者の声

「入院して1週間は任意入院でも外出できない。その後は主治医の判断で8～16時は外出できるようになる。16時以降は飲酒機会が増える時間帯のため、自助グループ参加以外の外出は制限がある」「外出はしない。お金は使わない。診察は週に1回。1年くらい先に退院予定。文句言ってもしょうがない」

中央館3階病棟 閉鎖 男性 精神一般15:1 67床

認知症の患者は本館4階で入院を受入れているが、退院して半年以内に再入院した場合、この病棟に入る。入院期間が30数年の患者もいた。

患者の声

「昭和の時から入院していて、何年入院しているかわからない」「寮があるのでそこに行ってみないかと言われている」「薬の説明はある」「ラジオ体操をしている時が楽しい。入院は3ヶ月と聞いているので、後2ヶ月。

薬は食後にデイルームで座って飲む」「入院して14年目、母と妹が面会に来る」

中央館4階病棟 閉鎖 女性 精神療養 57床

患者の年齢層は30～90歳代。認知症患者が多い。認知症患者には、散歩などで逸れても分かるようにリストバンドを付けてもらっている。

病室を改築してデイルームが作られていたが扉(引き戸)はきしみ、出入りにくそうだった。病室におやつは持込めないとの掲示があった。

患者の声

「40年病院にいる。初めは人間関係や環境の変化でつらかったが、行事などを経験して慣れていった。今は嫌なことがあってもOTを週5回やって、気が晴れる」「普段は音楽を聴いて過ごしている。タバコは1日4本吸っている。自分はそう決められている。タバコは近くのコンビニに買いに行っている」「今日、母とヘルパーが面会に来てくれた。もうすぐ役所の人が訪問してくれる。その人が施設を探してくれて退院する予定」「お金は社協の人が預かってくれている。お金が無くなったと電話したら持ってきてくれる」

北館2階病棟 閉鎖 男女 特殊疾患 60床

介護度の高い患者が入院しており、57名中50名が車椅子や寝たきりの状態、自立して動ける患者は3名程度とのことだった。単独外出が可能な患者はおらず、職員や家族同伴で売店に行くか代理購入。金銭を自己管理している患者は1、2名。

北館3階病棟 閉鎖 女性 精神療養 60床

入院期間は数日～20数年と幅広い。車椅子使用者は約30名。週1回病棟でカラオケ大会をしたり、OTに誘ったり、イライラしている患者には職員同伴で散歩に行く等で、安定した日常生活を送ってもらえるようにしているとのことだった。

患者の声

「家族が洗濯物を取りに来てくれるので、その時に話せる」「入院して1年半位。30年出たり入ったりしている。家族から『ここに入っていて』と言われている」「外出してない。家族は面会に来る。必要なものを買ってきてくれる」「病棟から売店に皆で買物に行くのが楽しみ。職員がついて10名程で行く」

はなみずきA病棟 閉鎖 男性 精神療養 60床

統合失調症と認知症が多い。年齢層は高く、車椅子の患者も多かった。金銭管理は殆どの患者が病院管理で、3名が自己管理だった。退院支援委員会には15名が対象者になっているが、具体的に動いているのは1名。高齢者が多いので隔離は困難。たまに、興奮した場合や他室への出入りを繰り返す患者を隔離することはあるそうだ。

多くの患者は寝ているかテレビを見ているかのどちらかで、全体的に静かだった。



患者の声

「年4回ぐらい行事があって、その時に皆で外出する」「入院43年目。土曜日だけ、外出と買物の許可が出ている。近くのスーパーやラーメン屋に行く。5,000円渡されて好きなものを買う」「外出はしない。お金も持っていない。院内売店や自販機で買うこともない。禁煙している。外に出ると吸いたくなるので、外には出ない。診察は週2回。任意入院」

OT(作業療法)室

午前と午後に分かれて、どちらも最大約70名まで参加可能。プログラムは10種類以上あり、映画観賞・パソコン・手芸・パズル・カレンダー作り・カラオケ等が行われていた。嚙下体操を取り入れており、それにより事故件数が減っているとの説明だった。30名程の患者が会話をしながらストレッチしたり、歌ったりしていた。

患者の声

「売店の商品が全体的に高い。お風呂で使うナイロンタオルなどが高い」「きょうだいが面会に来てくれる。外出はその時にする」

検討していただきたい事項

身体拘束中の患者のプライバシー・尊厳について

はなみずきA病棟では、拘束が必要な場合は観察室(詰所前の廊下の向う側にある広めの個室2室)で行うとのことだった。その際ドアは開放しておくとのことだった。(病院:再度検討し改善します。)

退院に希望の持てる情報提供や支援を

退院の相談が十分にできていない入院期間の長い患者の方が多くいるようだった。(病院:退院促進については従来より最重点課題として取り組んでいるところで、1年以上の長期入院者の数は前年より35人、5年前より80人減少しています。一定の成果はみられるものの、退院先の確保や病状の問題から退院に至らない患者も依然多く、今後の努力課題となっています。)

診察について

- (1)退院の目途や薬の説明を「聞いていない」「相談できていない」と言う患者がいた。
- (2)医師によっては、デイルームやベッド横などで回診を基本として診察を行っているようだった。患者からは「主治医は病室に来て診察するが、ゆっくり話す感じではなく回診する」等の声があった。
- (3)患者から「主治医に、退院したいと伝えたが、『精神疾患だから無理』と言われ、その後は退院の話は出来ない」「主治医の先生が『薬を飲まないと強制入院になるかも知れない』と言う」との声があった。
(病院:患者の症状に応じ、その都度わかりやすく説明する努力はしていますが、患者によっては十分に理解しにくかったり誤解を招いている場合もありますので、今後とも努力課題として検討していきます。)

ベッド周りのカーテン使用について

中央館3階病棟では、患者から「カーテンはあるが、男性だけの病棟なので使えない」との声があった。(病院:カーテンの使用を制限することはありませんが、職員の説明不足からそのように理解されていたようです。自由にカーテンを使用できると説明しました。)

権利擁護と患者の視点に立った点検の必要性

北館3階病棟では、公衆電話機の周りに精神医療審査会の掲示がなかった。(病院:電話の向かい側の柱に掲示されていたため、電話の上のわかりやすい場所に移動しました。サービス向上委員会により月1回院内ラウンドを行い点検しております。)

職員の接遇について

患者から、職員の接遇について「優しい」「言葉遣いは丁寧」という声もあったが、「前の病棟の看護師には相談できたけど、今の担当看護師には話せない。上から目線で話す」との声もあった。(病院:従来より教育研修を繰り返し行い、一昨年度より人事考課の評価項目にも取り入れ、改善努力をしていますが、今後も引き続き取り組んでいきます。)

患者の声を聞く姿勢を

自分の困りごと、思い、要望、質問等を口にできないまま過ごしている患者がいた。(病院:日常の診察や看護の中で患者の意見や要望等について注意して聴くよう指導していますが、更なる検討をします。)

病院に預けている金銭の残高と明細について

患者から病院に預けている金銭の残高や明細を知らないとの声が複数あった。職員によると「残金一覧表を作っているので詰所に聞いてもらえば分かる」とのことだったが、そのことを知らない患者も多くいるようだった。(病院:預り金管理については自己管理化を含め、課題を検討します。)

入浴について

患者から「のんびりとはできない。早く出て次の人という感じなので焦る」との声があった。(病院:状況を調査し改善を検討します。)

落ち着いて療養できる環境を

「洗濯場に掃除道具があり、汚くて嫌」との患者の声があった。北館2階病棟、はなみずきA病棟では掲示物が殆んどなかった。(病院:改善を検討します。)

精神保健福祉資料より(平成28.6.30時点)

644名の入院者のうち統合失調症群が343名(53%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が143名(22%)、精神作用物質による精神及び行動の障害が89名(14%)。入院形態は任意入院313名(49%)、医療保護入院329名(51%)、その他の入院2名(0.3%)。在院期間は1年未満が154名(24%)、1年以上5年未満の患者が204名(32%)、5年以上10年未満の患者が121名(19%)、10年以上20年未満が84名(13%)、20年以上が81名(13%)。

ほぼは 大阪府内の精神科病床のある
全病院への訪問活動の報告です。

210ページの
のうち 192ページ

病院訪問活動から考える
権利擁護

この本の使い方はいろいろ

- 「大阪府内の精神科病院の情報を知りたい」
- 「病院訪問活動の視点を知りたい」
- 「実習前に精神科の療養環境について知っておきたい」
- 「自分の勤務する病院を見つめなおしたい」

認定 NPO
大阪
精神医療
人権センター
30周年

A4 サイズ / 210 ページ
2,000 円

目次

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうつりかわり
- ・療養環境サポーター制度について
- ・各病院の訪問報告
- ・各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- ・入院中の精神障害者の権利に関する宣言



クリック

療養環境サポーター
最新報告

人権センターニュース毎号 2 病院掲載中

入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回 2,000 円～ 4,000 円／2 名分）や複数の事務局スタッフの人件費（年間約 500 万円）が必要となります。

会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

会員種別
年会費

賛助会員

障害者 1,000 円
個人 3,000 円
団体 5,000 円

特別協力会員
& 寄付
大募集

特別協力会員

A 10,000 円
B 30,000 円
C 50,000 円

会員特典

人権センターニュースの送付 2か月に1回 年間6冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号2病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等を知ることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。

メルマガ配信 1か月に1回から2回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報等をいち早くお知らせします。

活動参加のための情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNS による情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。



寄付特典

ご寄付をしていただく場合、確定申告によって『税額控除』を受けることができます。

税額控除とは？

※確定申告は最寄りの税務署にご相談ください。

※大阪府（堺市を除く）に在住の方は、地方税も控除されます。

※控除には限度額があり、実際の税額はケースにより異なります。

寄付金 1 万円の時

所得税額 -3,200 円

実質負担 6,800 円

寄付金 5 万円の時

所得税額 -19,200 円

実質負担 30,800 円

10,000 円のご寄付で、2～3 名の面会が可能になります。

郵便払込	口座番号 00960-3-27152 加入者名 NPO 大阪精神医療人権センター
銀行振込	三井住友銀行 南森町支店 普通 1485805
現金	講演会会場・事務所にて
クレジットカード	ウェブサイトのみ



こちらより申込書をダウンロードできます
検索 大阪精神医療人権センター
<http://www.psy-jinken-osaka.org/>
入会・寄付は WEB でも手続きできます。

クリック

認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター

お問い合わせ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F

TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール advocacy@pearl.ocn.ne.jp